

第4学年道徳科学習指導案

令和5年10月12日(木)

授業提案者 高須 翔太

- 1 主題名 進んでみんなのために働く(教材名「ぼくの草取り体験」日本文教出版)
- 2 ねらい 主人公の草取りに取り組む気持ちの変化から働く意味を考え、進んでみんなのために働こうとする実践的意欲と態度を育てる。

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は、内容項目C-14「働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。」をねらいとしている。

勤労奉仕的活動はこれからの社会を成り立たせる大切なことである。また、金銭を伴わない勤労奉仕的活動は、みんなのために行ったという満足感や充実感が伴い喜びがある。そのためにも、働くことの大切さや、みんなのために働こうとする態度について考えさせる必要がある。

この期の子どもは、係や当番活動を行ったり、地域清掃に参加したりする機会が多くなる。下学年の頃は、勤労奉仕的活動を喜んで行う姿が多く見受けられるが、学年が進むにつれてしぶしぶ行うようになり、何かとさぼろうとしたりする姿も見受けられる。自分がしなくても他の誰かがするだろうと、自分だけが仕事をするのは損であるなどの考えをもつ子ども見受けられる。そこで、このような内容を学習することは、仕事にはもっと多くの意義があり、利害に関わりのない仕事もあることや、それを行うことによって心の充足があることなどにも気付くことができ、みんなのために働こうとする態度を育て、実践につなげていくうえで意義がある。

(2) 子どもについて

本学級の子どもは、人なつっこく、素直な気持ちで行動し、他者と関わることができる。勤労・奉仕の観点から見ると、役割を与えられると高い意欲でその仕事に取り組むことができる。さらには、自ら仕事を求めて教師に何かできることはないかと聞いてくる子どももいる。しかし、4月当初は、清掃等様々な場面において、トラブルが多発し作業を円滑に進められる状況ではなかった。そのため、その都度指導したり、教師がこれまでの生活のなかでできるだけ子どもと一緒に作業したりすることで、トラブルなく活動できるようになってきた。最近では、落ち着いて作業を進めることができるようになり、さらには習字や図工の授業で片付けの時間に教室や廊下の床を掃除したり、給食後に子どもたち自身が役割分担をして清掃活動をしたりするなど、勤労意欲が高まってきていることがうかがえる。しかしながら、その作業場面において周りが活動しているなか、遊んでしまうような子どももいる。もともとは素直で優しい子どもが多いため、今まで自分がもっていた勤労意欲や奉仕の精神よりも道徳性の高いものにふれた時、さらに高い価値に向かって努力しようとするのが期待できる。

道徳科の学習においては、資料の内容を理解し、場面ごとの主人公の心情に多面的な視点から共感することができるようになってきている。その際、タブレットで心情メーターを操作しながら考えることにも取り組んでおり、素直な気持ちで意見を発表することができるようになってきた。しかし、実際の生活場面において、道徳の時間に考えたことを意識した言動があまり見られないため、道徳的実践意欲を育む指導についてさらに追究する必要がある。

(3) 教材について

そこで、奉仕活動は人を喜ばせることやみんなのために役立つという満足感や充実感を得られることに気付かせ、さらに実践につなげようとする態度を養うために、教材「ぼくの草取り体験」(日本文教出版)を取り上げる。この教材は、しぶしぶ公園の草取りに行った「ぼく」が、ていねいに草取りをするひろしの言葉を聞いて、その意義について考え気付くという話である。はじめのぼくの気持ちへの共感を基に、その後のぼくの気持ちの変化に気付かせたり、ひろしや大人の草取りに

取り組む気持ちにも目を向けさせたりすることで、より働くことの大切さを理解し、集団の一員として自分の役割を果たそうとする態度へと発展させることができる教材であるとする。

(4) 指導について

導入の段階においては、7月に運動場の草取りを実際にした時に子どもから集めた感想を提示することで、自分たちの奉仕活動への素直な気持ちを想起させる。その際、奉仕活動に後ろ向きな意見に着目させることで、ねらいとする価値に対する方向付けをしていく。

展開の段階では、資料の登場人物や場面絵を提示し、場面の様子を理解しやすくすることで、関心を高めながら考えることができるようにする。発問は、主人公の気持ちだけを考えさせるのではなく、主人公の気持ちが変わるきっかけとなった、ひろしの気持ちについても考えさせることで、多面的に「進んで働く」ことへの価値に迫ることができるようにする。また、子どもが登場人物の心情について考える際は、ロイロノートの心情図を使わせることで、人物の心情を様々な角度や視点から考えたり、細かな変化に気付いたりすることができるようにする。さらには、7月に行った草取り作業を想起させることで、自分の経験と結び付けながら、深い学びができるようにする。

終末の段階では、これまでの自分がどのような気持ちで仕事に取り組んでいたかを考え、発表させることで、他の人の考えを受け止めつつ、今回の学習と結び付けこれから進んで他人のために働こうとする実践的意欲と態度を育てたい。その後、4月から学級通信で知らせてきた子どもの日常の奉仕活動の様子をフォトムービーにし、それを視聴することで、自分たちが今までにも他人のために思って働いてきたことに気付かせ、「進んで働くこと」に対して前向きに希望をもって臨んでいこうという気持ちをもたせて終わりたい。

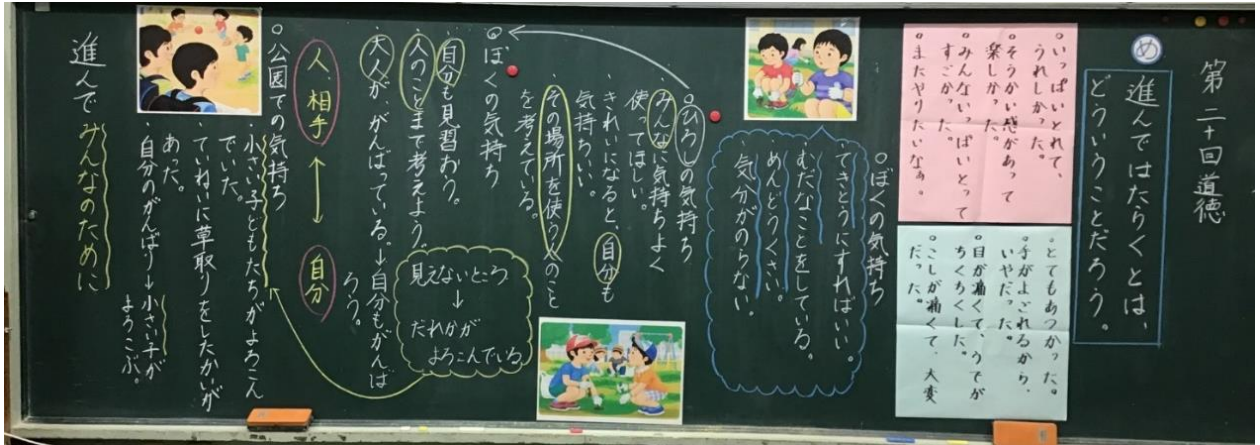
4 事前・事後指導

事前指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7月に学級活動の時間に行った中庭の草取り作業後に集約した感想を本時の導入で示すことで、自分たちの経験も踏まえて教材に入り込めるようにする。 ○ きれいになった中庭で遊んでいる1年生の様子を動画に撮り、視聴させることで、自分たちの努力が人の役に立ったことに気付かせ、教材を基に考える際に自分の経験と結び付けて考えられるようにする。
事後指導	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の会、帰りの会等で、子どもが勤労奉仕的活動をしたことを取り上げ、称賛し、進んでみんなのために働こうとする意欲付けを図る。 ○ 学級通信で、その後の子どもの勤労奉仕的活動を取り上げ、他者のために進んで働く意欲の継続を図る。

5 学習指導過程

学習活動及び学習内容	指導上の留意点	教材・準備
<p>1 指導内容についての認識をこれまでの経験から確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 7月に暑い中、草取りをしたときの感想について ○ 本時のめあて <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 進んで働くとはどういうことだろう。 </div> <p>2 教材「ぼくの草取り体験」を読んで、話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 草むしりをした時に子どもから集めた感想を紹介することで、奉仕活動の場面を想起させ、素直な気持ちに気付くことができるようにする。 ○ 「進んで」という言葉を含んだテーマを示すことで、単に働くこととは違い他者を意識した勤労奉仕的活動に対する価値について考えられるようにする。 	タブレット型端末 大型モニター

7 板書計画



8 子どもが使う思考ツール

○ 心情図 (ロイロノート)

